



日本心理学会第88回大会
IS-002 : 2024/09/06

“博士後”の出口戦略を考える

企画シンポジウム：若手が進路をあきらめないための「新しい支援体制」と「戦略」のありかた

○工藤 大介（東北学院大学・日本心理学会若手の会幹事）

mail: dkudo@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL: <http://dicek.net/>, x: @kddisk

公募戦線異状だらけ

- 博士号取得は「ゴール」ではなく「スタート」
- 何かしら職を見つけないと学歴がある無職になってしまう
- とにかく公募戦線（Jrec-in）で戦わないといけない
- これまで3回公募を通じて職を得てきました
- その背後で累計100回はお祈りをされています
- 書類づくりの手間もキツイ，応募のための郵送費もキツイ
- 面接等の旅費も超キツイ
- やっぱり箸にも棒にも掛からないのは一番キツイ

自己紹介と博士院生時代



- 工藤 大介（くどう だいすけ）
- 東北学院大学経営学部 准教授
- 日本心理学会若手の会 幹事
- 専門：社会心理学，リスク心理学，消費者行動
- **とにかく優秀な院生ではありませんでした**
→ **優秀であろうがなかろうが，博論のために論文を書くしかない**
- 体調が安定しないので，自由にやらせて貰えるのは助かりました

就職を目指して：戦略を考える

- **自分が優秀であれば採用され...ません！**
→ 大学等が求める人材像を考えないといけない
- 自分がどれだけ優秀かではなく何ができるかを売り込む
→ **雇うことによってどんなメリットがあるかを訴える**
- 正直研究がしたいだけでは大学等は雇ってくれません
- 広島修道大の中西大輔先生曰く「大学は雑務や書類仕事に対してお金を払っている」
→ **この言葉の意味がわからないとずっと無職**

具体的な戦略の方向性

- 研究一辺倒のアピールになっていないか？
 - 研究も教育も校務もできるのが大学教員
 - **教育や校務を厭うのは面倒な人材**
- 求める人材像にマッチしているか？
 - 教育メインの公募枠に研究できますとアピールしてもダメ
 - 担当科目を教えられるだけの業績があるか？
 - 教育歴は確保できているか？
- 大学の理念や建学の精神とマッチしているか？
 - **書類作成や面接の前には建学の精神等を熟読する**

面接での戦略を考える

- 面接で重要なことは、聞かれたことに「適切に」「適切な分量」で対応すること
- 自分の研究について延々プレゼンテーションをしたり、自分の優秀さを延々アピールする場ではない
- 嫌なことを聞かれたり、キツイことを言われてもある程度せるだけの胆力も必要になってくる
- よくわからない質問によくわからないまま答えるのは悪手
 - 質問を明確化するのもコミュニケーション能力
- 巷で話題の「清潔感」なるものが合否を左右することもある

書類での戦略を考える

- **公募書類作成で重要なのは、求められていることを過不足なく書いてアピールすること**
- 誤字脱字は事務処理能力を疑われるのでNG
- 研究や教育の抱負等については、大学の求める人物像に合わせて書く
 - 公募要項や建学の精神をよく読む
- 研究教育業績は正直に書く
 - 共著の著者順や刊行年をうやむやにしない
- 参照先や推薦者になるような人を在学中から確保する

審査をする側になって

- 公募書類をちゃんと書けているか？
 - 研究・教育に対する考えや抱負はちゃんと読みます
 - 誤字脱字や不適切な表現はマイナスポイントになります
- 建学の精神や理念を理解できているか？
- 一定数の教育歴・業績があるか？
 - 業績がないとスタートラインに立っていない
 - **どれだけしんどい現状でも研究は続けて、論文を書く**
 - しかし、業績が多くても、共著ばかりだと評価されないことも
- 公募枠の科目を担当できそうか？
- 一緒に働いてみたいと思うか？（一番重要）

工藤の博士課程に進学する意義 A quelque chose malheur est bon

- 博士課程に進学し、様々なものに興味を持ち、視野が広がった
- 学術的な文章の書き方、物の言い方・考え方が身についた
- ストレスコーピングができるようになった
- 人に感謝できるようになった
 - ここまで来れたのは自分一人の力ではない
 - **他者に厳しく当たって何の意味があるの？**
- なんでも楽しもうとするようになった
 - **なんでもかんでもケチつけて回るよりも、頭のネジぶっ飛ばして楽しんだ方が良い**

Thank You!